

高齢者の肺炎球菌感染症 予防接種を受けられる方へ

1 高齢者の肺炎球菌ワクチンとは

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、唾液などから飛沫感染します。日本人の約3～5%の高齢者では、鼻や喉の奥に菌が常在しているとされています。これらの菌が何らかのきっかけで進展することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

肺炎球菌ワクチンを接種しておくことで、肺炎の予防や肺炎にかかっても軽い症状ですむ効果が期待されます。

2 予防接種を受ける前に

(1) 一般的注意

予防接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。「気にかかること」・「心配なこと」・「わからないこと」があれば、予防接種を受ける前に医師に相談しましょう。十分に納得できない場合には、接種を受けないでください。

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任をもって記入し、正しい情報を接種医師に伝えてください。

予診の結果、予防接種を受けられない場合もありますのでご了承ください。

(2) 次の人は受けられません

① 過去に肺炎球菌感染症予防接種(23価肺炎球菌荚膜ポリサッカライドワクチン)を受けたことがある人

定期接種の対象外です。過去に接種歴のある場合、副反応の発生頻度が高く、また程度も強く出ると報告があります。

② 発熱している人

一般的に、体温が37.5℃をこえる場合を指します。

③ 重い急性の病気にかかっている人

急性の病気で薬を飲む必要のある人は、その後の病気の変化がわからなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。

④ これまで予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがある人

「アナフィラキシー」というのは通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身症状です。

⑤ その他医師が不適当な状態と判断した場合



(3) 医師とよく相談しなければならない人

- ① 心臓、じん臓又は呼吸器の機能に自己の身の日常生活が極度に制限される程度の障がいがある人
- ② ヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障がいがある人

(4) 予防接種を受けた後の注意

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② 入浴はさしつかえありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- ③ 注射した部位は清潔にしましょう。
- ④ 接種当日はいつもどおりの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ⑤ ワクチンの副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。

3 肺炎球菌予防接種の副反応

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることもあります。通常2～3日のうちに治ります。

また、わずかながら、発熱、寒気、頭痛、全身のだるさなどがみられることもありますが、通常2～3日のうちに治ります。また、接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れる等の報告があります。

非常にまれですが、肘を超える蜂巣炎様反応（化膿の一種）、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。特に症状が激しい時は接種医師の診察を受け、その後速やかに市・町担当課にご連絡ください。

健康被害が起こった場合は、予防接種健康被害救済制度があります。

予診票は、向日市・長岡京市・大山崎町に住民票のある方しか使えません。
転出された場合は、転出先の市町村にお問い合わせください。

※接種後、医療機関窓口で「高齢者の肺炎球菌感染症予防接種済証」をお受け取りください。

【お問い合わせ】 向日市 健康推進課 ☎ 075-874-2697
長岡京市 健康づくり推進課 ☎ 075-955-9704
大山崎町 健康課 ☎ 075-956-2101